

V.G 槻輪だより

会報第 16 号
発行日 平成 18 年 1 月 31 日
発行・編集 V・G 槻輪
代表者 大岡成一
http://web3.ibj.co.jp/kirin

わがまち紹介 心やすらぐ自然のまち 寒天の里（寒天工場訪問）

訪問日 平成 18 年 1 月 19 日（木）
訪問先 榎タニチ
田能工場（田能フシロ田）
説明者 北倉眞澄工場長

内容：寒天業が摂津の国へ伝播したのは天明年間（或は明和年間）で、大阪府島上郡原村（現在の高槻市）の美濃国加納藩主永井家の領地で宮田半兵衛が、この土地が地勢 気候 水質等寒天製造の条件に最も適している事から、原藻の配合や製造法に工夫を凝して立派な寒天を製造する様になった。

現在、高槻で伝統を引き継ぎ寒天を作っておられるのは、タニチ田能工場だけです。

寒天は寒い時期のみしか作れませんが、従って 1 月の下旬を選びました。近年、温暖化の影響がこの寒天製造業にも影響し、1 月下旬の一番寒い時期でも少ししか製造されず、工場見学をお願いした最初

最近、異常なブームで品薄になり、価格が沸騰しても、長い取引の得意先（和菓工房）には常に品買を揃え、価格も努力して納入を続けておられるとのこと。北倉工場長は長年寒天作りで専念されており、当日は、風邪気味にも拘らず、寒風の中で丁寧に説明をしていただき



受け入れていない・・・と言われたが、お願いしたさいです。

ました。本当に有難う御座いました。 田能地区は、バスの本数が少ないです。バスを待つ時間に寒さを吹き飛ばそうと森林公園まで歩き出す始末です。このくらい寒いところではないと寒天作りに適していないのです。 標高 3200〜3700メートルの高原地帯にあります。気候は宮城の仙台とよく似ているそうです。 芥川上流にある田能を中心とした旧 5 ヶ村（出灰・中畑・田能・一料・杉生）から成っています。この 5 ヶ村は明治 4 年に京都府桑田郡（現在に南桑田郡）となり、明治 33 年町制おこなわれ、榎船神社の榎と田能の田を取って「榎田村」としました。

たかつきフェスタ

2006 に参加しよう！、市民公益活動団体が開催（目的）
活動内容と意義を知ってもらう
団体間のネットワークづくり
行政との協働づくり
日時：平成 18 年 3 月 4 日
9:45 ~ 17:00

V.G 槻輪としては

ブースに展示：
活動内容写真・肌で感じる環境
スタンプラリー：（市民との交流）
団体紹介冊子に掲載
掲示板に会員募集掲示

高槻市との合併は、1956 年（昭和 31 年）新市町村建設促進法により、1957 年に府県をまたがる越境合併です。 榎田地区は、戦前はもちろん戦後昭和 30 年代前半までは新炭の生産を主体として米作や松茸の生産によつて経済を支えて来たのですが、同時にこれらが共に破壊してしまつた。仕方なしに若い労働者は会社その他へサラリーマンとして就職するようになり、活気を失い人口は減少していった。 昭和 54 年緑の村整備事業や林業構造改善事業が実践され、自然環境に恵まれたこの地域に、しょうぶ園や森林観光センター、せせらぎの里や一料山荘のある観光農業として次第に活気ある村づくりが進んできた。 田能： 芥川の上流、田能川沿いの丹波街道筋に当たります。古くは皇金領庄園、現亀岡の矢田庄または別院庄からの分郷と言われています。 江戸時代には丹波亀山藩領 400 石余、丹波に緑が深く、鎮守社である榎船（カシフネ）神社も矢田の畷山神社と密接する。 田能は盆地で寒天製造に適していました。 出灰（いずりは）： 芥川上流の出灰川添いに有ります。古来石灰を産し、朝廷に納めていました。領主は田能と同じで約 60 石、産土神としてスサノオ神社があります。 中畑： 芥川の上流、中畑川沿いにある元 200 石の村、柳谷観音の巡礼道です。 一料： 田能の西、安威川の上流になります。田能の名主・藤井神社（鹿爪権現）があり、田能の一部だと考えられています。90 石余。 杉生： 安威川の上流、古くから遍路道とされています。 S・O

2 月度行事予定

工場野菜栽培：水気耕栽培（ハイポニカ）

月 日：平成 18 年 2 月 16 日（木）
場 所：協和・ハイポニカ研修センター前 13:15 集合
交通案内：市バス JR 高槻駅 のりば 関大行き 12:50 発 清福寺下車 バスの進行方向へ約 5 分左手に温室がある。

3 月度行事予定

古代のロマンのまち：古首部地区

月 日：平成 18 年 3 月 16 日（木）13:00 集合
集合場所：西武デパート 2 階・橋上入口・エレベータ前
行 先：昼神塚古墳 乾性寺 伊勢寺 日吉神社 文塚 不老水 古首部際跡 伝能因古神墳